

近代詩曲の会の沿革

本会は、もともとは桜村公民館定期無料利用団体として筑波研究学園都市創設期の1970年代に結成されたもので、50年の歴史を有し、いわゆる新住民による文化芸術団体としてはつくば市でも最も古いものの一つであり、会員相互の研鑽研究と共に地域の音楽芸術文化の交流・発展・発信を目的とするプロ音楽家及びアマチュアの内でも最もハイブラウでハイレベルな者の比較的小人数のグループである。[なお多年桜村文化協会（その後つくば市文化協会桜支部となる。）に所属していたが、現在はつくば市文化協会洋楽部門に所属している。]

本会の半世紀に亙る歴史を示す文書、特に紙媒体のものは既に概ね散逸しているが、つくば市およびその周辺地域には未だ多く残って居ると考えられる。以下に比較的最近の活動例を示すこととする。

- 合唱活動が活発で演奏水準が高いつくば市でも、最も名声を誇った**混声合唱団銀の笛**を結成し主宰していた。[1]
- 現在も活動中の有力な**男声合唱団 KOΣMOΣ**もまた本会が創設から関り、十年余り練習会場の手当てからユニフォームの制作・管理に至るまでのマネジメントを行って来たものである。
- **つくば音楽団体交流協議会**の創設・会則起草にも寄与した創立会員であり、それが開催する**ムジカフェスタ・ディつくば**には1994年の第1回以来連続出演もして来ている。
- 今年第7回を行った**ソロフェスタ**も、その開催主体であり、本平成30年度つくば市文化祭ノバホール音楽会実行委員会を機関として引き受けて居る**つくばソロ連絡会**もまた本会の手で発足した。事実準備的にいわば第0回として行われたソロフェスタの前身は本会の主催であった。
- 音楽芸術的には、本会は、合唱に限らず独唱や声楽器楽取り混ぜたアンサンブルを継続的に追求して来ており、様々な独自の演奏活動・コンサートを行っている他、毎年**ムジカフェスタ**及び**つくば市民文化祭ノバホール音楽会**にもそれぞれの第1回から連続出演しており（本年で前者は25回、後者は41回になっている。）プログラムでもそのことが確認できる。[2]、[3]、[4]

このように本会は、比較的小規模であるが、独自の演奏活動・音楽芸術研究活動と併せて、半

世紀に亙って合唱団体やソロ団体等を通じて、つくば市内外の多くの芸術音楽を愛好する市民を組織し、或いはまた世話して来たものである。

- [1] 平成 18 年度つくば市文化協会加入団体一覧 (2011)
- [2] つくば市民文化祭ノバホール音楽会旧ホームページ所載 2013 年つくば市文化祭音楽会プログラム最終ページ 五十嵐の後に最も優秀な会員（当時 現在は会友）で、後に 2017 年日本音楽コンクール声楽部門 2 位及び岩谷賞（聴衆賞）に輝くこととなる横山 和美氏が出演している。(2013)
- [3] ムジカフェスタのホームページ <http://www.musicafesta.com/>からの 2016 プログラムの一部。近代詩曲の会が記載されている。(2016)
- [4] 同上実行委員長挨拶 当該年度は近代詩曲の会が実行委員（団体が委員となる。）の一つであり、会長五十嵐が委員長を務めた。(同上)